

令和5年度（2023年度）オホーツク管内 第1回特別支援連携協議会の概要

令和5年（2023年）6月6日（火）、14名の構成員の方々に御出席いただき、Web会議システムを活用し、オンラインによりオホーツク管内第1回特別支援連携協議会を開催しました。

構成員の皆様からは、オホーツク管内における特別支援教育の充実に向けて御意見をいただき、今後の取組について、下記のとおりまとめました。



【重点1】 幼児期から学校卒業後までの切れ目のない一貫した指導や支援の充実を図るために、各学校段階等間における「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用した組織的な取組を推進する。
組織的な取組のキーワード：「適切な就学」「引継ぎ」「進路指導」

【構成員からの主な意見】

- ・各学校段階間等の引継ぎにおいて個別の教育支援計画等の書面だけでは情報共有が不十分であることから、担当間で直接引継ぎを行う機会を設定し、十分に情報を共有する必要がある。
- ・特別支援教育のスタートとなる幼児教育段階においては、保護者の気持ちに寄り添うとともに、特別支援教育や個別の教育支援計画作成・活用の意義や目的を丁寧に説明する必要がある。
- ・個別の教育支援計画が、高等学校卒業後の進路への引継ぎに活用されていない状況が見られることから、個別の教育支援計画を活用し、障がいへの理解や合理的配慮等について進路先との引継ぎの充実を図る必要がある。
- ・学齢期以降に適切な支援を受けるために、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対して、個別の教育支援計画を作成し活用する必要がある。

【意見を踏まえた今年度の具体的な取組】

- ・教育局は、学校等における個別の教育支援計画の作成・活用の促進に向け、学校教育指導及び各種研修会において、個別の教育支援計画等を校内の支援体制の充実や、進路先及び関係機関との引継ぎ等に効果的に活用するよう指導助言する。
- ・教育局は、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する個別の教育支援計画作成の一層の推進に向け、簡略化した様式の活用について周知していく。
- ・各市町村教育委員会は、特別支援連携協議会や校長会等と連携し、卒業後を見据えた個別の教育支援計画の活用に向けて、関係機関との情報共有の場を設定するなど、各学校における組織的な対応の充実を支援していく。
- ・各学校等は、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する一貫した指導や支援の充実に向け、個別の教育支援計画を保護者と共有するとともに支援内容や実態等を適切に記録し、引継ぎ等の場面での活用を図る。

【重点2】 全ての教員が特別支援教育に関する理解や知識を深めることができるよう、全ての校種において、校内研修に特別支援教育を重要な柱として位置付けるとともに、全教職員で組織的に取り組めるよう校内体制の構築を図る。
組織的な取組のキーワード：「授業改善」「交流及び共同学習」「自立活動の指導」

【構成員からの主な意見】

- ・教職員の特別支援教育に関する専門性の向上に向け、学校教育指導や、特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業を積極的に活用するとともに、特別支援教育に係る教員免許の取得を促進する必要がある。
- ・校内における指導・支援の充実に向け、特別な教育的支援の好事例を全教職員で共有し、他の事例に活用するなど、校内研修の充実を図る必要がある。
- ・特別支援学級を担当する教職員の資質向上に向け、OJTの機能を生かした研修体制の構築等、人材育成の取組を推進していく必要がある。

【意見を踏まえた今年度の具体的な取組】

- ・教育局は、教員の特別支援教育に関する専門性の向上に向け、「教師力向上セミナー」「特別支援教育充実セミナー」「特別支援教育FSPオンライン授業改善セミナー」等、各学校や担当者のニーズに応じた研修会を実施する。
- ・各学校等は、特別支援教育を校内研修の重要な柱の一つに位置付け、全ての教員が特別支援教育に関する理解や知識を深めることができるよう、特別支援教育に係る教員免許取得促進など組織的な取組を推進する。